

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：谷郷 智美

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学	子育て支援、地域母子保健
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪府立大学大学院博士前期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. 国家試験対策e-learningシステム	2009年10月	学生が国家試験対策として、自主的に学習が可能となるように、E-learningシステムを用いて母性看護学に関する問題と解答を作成した。学生が活用し、国家試験に向けての学習に役立てることができた。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 国際認定ラクテーションコンサルタント	2009年7月	
2. 受胎調節実地指導員	2005年6月	
3. 助産師、看護師、保健師	2001年4月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 修士論文	単	2012年3月	第2子を出産した女性の産後3か月間の母親としての経験と思い	第2子を出産した女性17名に、産後1か月と3か月の3回半構造的面接を行い、母親としての経験と思いについて、質的帰納的に分析した。1か月時は10のカテゴリと40のサブカテゴリが、3か月時は10のカテゴリと41のサブカテゴリが抽出された。母親は1か月時には【2児との関わりのバランスの悪さが気になる】経験をしていたが、3か月になると【2児との関わりを会得する】ことで【よりきょうだいらしくなった2児を見てうれしい】と思っていた。また1か月時には【母親・家族としての自覚を実感する】経験をし、3か月になると【より母親・家族としての自覚が強まる】に変化していた。
3 学術論文				
1. 第2子出産後3か月間に母親が経験した子どもとの関わりに対する思い(査読付)	共	2015年7月	母性衛生56(2), p. 359-366.	第2子を出産した母親15名に産後1か月と産後3か月2回半構造的面接を実施し、質的帰納的に分析した。産後1か月にはそれぞれの児との関わりのバランスの悪さ、産後3か月時には2児との関わりの不十分さを感じていた。一方、子どもがきょうだいだと感じ2児の育児の楽しさを発見していた。
2. 第2子出産後3か月間に母親が経験した感情の変化	共	2014年3月	日本母性看護学会誌	2人の子どもを育てる母親が産後3か月間にどのような感情の変化を経験しているかを明らかにした。母親14名を対象に、産後1か月、3か月の2回、半構造的面接を実施し質的帰納的に分析した。産後1か月時は、【2人目の育児は余裕があり楽しい】【2児の育児の大変さを感じる】【母親・家族としての自覚を実感する】、産後3か月時は、【2児の育児は楽で楽しい】【2児の育児の大変さを実感する

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. 弟妹の誕生に伴う同胞の変化と家族の関わり	共	2010年7月	大阪母性衛生雑誌	<p>】【より母親・家族としての自覚が強まる】が抽出された。母親・家族としての自覚は第1子の時以上に感じており、3か月時には生活の変化や精神的負担を乗り越えたことでそれが強まったと考えられた。</p> <p>第2子出産前後、第3子出産前後の母親7名に半構造的面接を行い、同胞の変化と同胞に対する家族の関わりについて明らかにした。妊娠中は全ての家族が同胞に母親の妊娠を説明しており、具体的なイメージづけを行う関わりを行っていた。同胞は自身が妊娠の疑似体験をしたり赤ちゃんへの興味を示していた。退院後同胞は、弟妹をかわいがる面もあるが、興味関心が偏ったり焼きもちを焼いたり、今まで以上に甘えるようになったり、排泄の失敗などの退行現象がみられた。同胞の変化に母親は敏感に気がついており、同胞のニーズを受け止め、スキンシップを意識して増やしたり、理解できる言葉で愛情表現を行ったりしていた。</p>
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 第2子出産後3か月間の母親の感情の変化と思い	共	2012年5月	第14回日本母性看護学会学術集会 口頭発表(神戸)	第2子出産後の女性の母親としての感情の変化に着目し、第2子出産後の母親17名を対象に産後1か月と3か月に2回半構成的面接を実施し、質的帰納的に分析した。産後1か月時には、18個のサブカテゴリーと、3個のカテゴリーが得られ、産後3か月には21個のサブカテゴリーと、3個のカテゴリーが得られた。母親は、産後1か月時には、すでに子どものいる生活に馴染んでいるうえに、親としての責任を感じ、自分に母性を感じ、家族になったと実感し、母親としての自覚を実感していた。産後3か月になり、母親として成長し、2児のいる生活に馴染むことで、母親としての自覚が強まる経験をしていた。
2. 第2子出産後3か月間に母親が2児との関わりを会得する経験	共	2012年11月	第53回日本母性衛生学会学術集会 口頭発表(福岡)	第2子出産後の母親が産後3か月間に経験した2児との関わりとそれに対する思いを明らかにした。第2子を出産した母親17名を対象に、半構成的面接を産後1か月と産後3か月の2回実施し、得られたデータを質的帰納的に分析した。産後1か月時には4個のカテゴリー【】と14個のサブカテゴリー《》が、産後3か月時には4個のカテゴリーと12個のサブカテゴリーが得られた。母親は、1か月時には【2児との関わりのパランスの悪さが気になる】経験をしていたが、3か月になると《荒れる第1子とのつきあい方がわかってきた》ので、《第1子を怒ることが減る》経験をし、【2児との関わりを会得する】と捉えていた。
3. 弟妹の誕生に伴う同胞の変化と家族の関わり	共	2010年2月	第49回大阪母性衛生学会学術集会 口頭発表(大阪)	第2子出産前後、第3子出産前後の母親7名に半構造的面接を行い、同胞の変化と同胞に対する家族の関わりについて明らかにした。妊娠中は全ての家族が同胞に母親の妊娠を説明し、具体的なイメージづけを行う関わりを行っていた。同胞は妊娠の疑似体験をしたり赤ちゃんへの興味を示していた。退院後同胞は、弟妹をかわいがる面もあるが、今まで以上に甘えるようになったり、排泄の失敗などの退行現象がみられた。同胞の変化に母親は敏感に気がついており、スキンシップを意識して増やしたり、理解できる言葉で愛情表現を行ったりしていた。経産婦に対する同胞との関わりについての支援の必要性が示唆された。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 近年の看護学生の傾向と学生指導のポイント		2015年7月	小阪産病院勉強会	病院の看護職に、実習指導技術の向上を目的に、学生の背景や傾向と指導のポイントについて講義とグループワークを行った
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2015年4月`現在	大阪市東住吉区子ども・子育てプラザ プレパパプレママ講座講師			

学会及び社会における活動等

年月日	事項
2. 2014年4月～現在	大阪市住吉区子ども・子育てプラザ ベビーマッサージ講座 講師
3. 2012年4月～現在	大阪府助産師会 事業部（旧子育て・女性の健康支援センター） 運営委員
4. 2012年4月～現在	一般社団法人大阪府助産師会思春期Eメール相談 相談員
5. 2009年～現在	一般社団法人大阪府助産師会ティーンズヘルスセミナー 講師
6. 2008年4月～2012年3月	大阪府助産師会 教育委員